

令和7年度 西念寺報恩講のご案内

～報恩講の由来～

報恩講は親鸞聖人滅後、門弟たちが親鸞聖人の御命日にお勤めをしたことに始まります。当時は「報恩講」と称していませんでしたが、宗祖三十三回忌の際には、第三代覚如上人が『報恩講私記』（式文）をお作りになって法要の次第を調べられ、後に覚如上人の子・存覚上人が『歎徳文』をお作りになって法要の次第に加えられました。そして第八代蓮如上人の頃には、各地の寺院・道場でも広く勤まるようになりました。

スダッタの目覚め

良い馬百頭 取りそろえ
黄金を百斤 積み上げて
口バと車を 百ずつ集め
種々の珍宝 山ほど積んで
人に施す 功德でさえも
真心込めて つつましく
仏陀に向かって 一足歩む
大きな功德に 比べたならば
十六分の 一にも足らぬ
進め長者よ もどるな長者

インドの祇園精舎を建立したスダッタ長者の物語の一節です。前世の知友が神となって現れ彼に語りかけました言葉です。お釈迦様は自体満足といわれ「1分の1」の満足、私どもは外のもので満足しようとする「16分の1」の不満足。奪い合い争いあって「16分の2」になったところで満足しないのだと教えられます。「1分の1」のお心に触れた時、私どもは「16分の1」に安んじて生きる人生が開かれてくるのではないのでしょうか。真宗の原点は報恩講と言われます。一緒に聴聞できれば幸いです。

住職 鈴木啓介

記

◇11月16日(日) 午後1時30分～午後4時

大逮夜、法話2席

◇11月17日(月) 午前10時～正午まで

満日中、法話1席、法要後におとしき

◆おとしき当番は、市街2班の方々(文光町・青葉町・新光町)の皆様です。何卒ご協力お願いします。ご都合のつく方は、坊守までご連絡下さると幸いです。